

## ANAの新規CSR提案

情報科学研究室

名前 落合 由希野

## 研究の背景

私は去年就職活動を行ったが、多くの企業が自社のCSR活動を大きくアピールしており、優良なイメージを持ったとともにより理解を深めたく思った。同じ業界の企業でも、各社ごと取り組んでいるCSRや理念が違うため、企業研究には欠かせない判断材料にもなっていた。中でも一人ひとりの社員の方々が人の笑顔や喜びのために一丸となって日々全力で業務にあたっていることを最も痛感した会社がANAであった。そのため世界を舞台に幅広い活動をしているANAの具体的な活動や思いをより深く考えたくこのテーマを採用した。最終的には新規のCSRを提案することを目的とした。

## 目的

世界を舞台に幅広い活動をしているANAの具体的な活動や思いをより深く考えたくこのテーマを採用した。最終的には新規のCSRを提案することを目的とした。

## 方法

調査は、四冊の書籍「CSR 繋がりを活かす経営」  
「企業の社会的責任CSRの基本がよくわかる本」  
「現在窮乏、将来有望」  
「航空の経済学」  
また、三つのWebサイト  
・ANAアニュアルレポート/ANAHP/ANAケータリングサービスにおける取り組み  
これらを用いて取り組んだ。

## 結果



図1 環境保全活動での様子



図2 オーストラリアの慈善団体

これらを踏まえた上で、貧困地域に限らず世界各国の慈善団体と協定を結び、ANA便が到着した後すぐに、各学校や施設に機内で余った手つかずの食事を届けるという提案をした。この食事を、慈善団体の方々に加え、ANAボランティア社員によって直接配布する。ANAでは、「あんしんあったかあかるく元気に」という考えを大切にしており、私自身社員の方々と接した上で肌で感じたからこそ、世界中の方々へ温かさも共に届けたいと考えた。この取り組みの実践では、日本の魅力について食を通じて感じてもらえると共に、ANAという会社をより世界中の方々に知ってもらう機会にもなりうると思われる。

## 考察

ANAグループは、CSR基本原則に忠実に、そして常に発想力豊かで人々をわくわくさせる取り組みを考え実践していることが改めて分かった。5スターを4年連続で獲得してもなお、全社員の方がお客様のために日々成長改善を積み重ねている姿勢こそが、世界評価に繋がっているのだ。そして、根底にある考えが「人のため」だからこそ、多方面であらゆる取り組みが生まれ、真剣に取り組んだ結果、自然と功績がついてくるのだと考えられる。

## 課題

今回は、ANAの中でもFSCに注目したが、まだ課題の多いLCCもより深めればよかったと感じる。若者の利用客が多い反面、安全面や定時制に不安も多い。それはCSRの透明性に欠けているためだと感じる。このような中で、CSRレポートの刊行を促進させ、透明性を向上させることで、安心や信頼の獲得に繋がるのではないかと考えられた。